令和6年度 鹿角市立十和田中学校 学校評価書

<参考表示>

目標	市の施策の基本方向	評価指標（学校の実践課題）	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	市の施策の柱
			中間	中間	年度末	年度末	
確かな学力と高い志を育てる教育の充実	基本方向1 自己実現のために必要な確かな学力の定着を図ります。	○探求型授業プロセス「かいたく」の推進と、授業におけるタイムマネジメント力の向上 ○生徒指導の機能を活かした望ましい学習集団づくり ○読書活動の推進（朝読書の推進・生徒主体による読書活動の推進）と授業と連動した読解力の育成（ビブリオバトルの実践）	3	3	4	4	①なぜ学ぶのかを明確にした主体的・対話的で深い学びの実現 ②望ましい学習集団の育成による児童生徒の学力向上対策 ③読書活動の推進と読解力の育成
	基本方向2 自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材を育てます。	○発達段階に応じたキャリア教育の推進（望ましい勤労観・職業観等の育成・進路指導の充実） ○地域に学び貢献しようとする気概をもった生徒の育成（TAPの見直し・充実、地元企業との連携、ライフスタディの充実） ○地域と連携した地域を元気にする取組の実践（地域主催行事やボランティア活動への参加奨励・生徒の学習成果の披露）	3	4	3	4	①社会的・職業的自立を目指した教育活動の推進 ②ふるさとへの理解を深める体験的な活動の推進 ③鹿角市の未来を支え盛り上げる人材の育成
	基本方向3 情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材を育てます。	○学びの質を高めるICTの活用と情報モラル教育の推進（ICTを活用した主体的な学習の構築・関係機関と連携した情報モラル教育の推進） ○コミュニケーション能力（TPOにあった話し方）の向上とグローバル化に対応した情報発信 ○鹿角のよさ、十和田のよさを知り情報発信できる生徒の育成（TAP活動内容の充実による情報発信）	3	3	4	4	①ICTを活用した情報活用能力と情報モラルの育成 ②グローバル化に対応する能力の育成 ③他地域との交流によるコミュニケーション能力と発信力の育成
豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育	基本方向4 豊かな心を育みます。	○学校教育目標の具現化を目指した発達支持的生徒指導の推進（自己有用感と主体性の醸成と自己開拓の推進） ○道徳教育の充実と「特別の教科 道徳」授業実践による道徳的判断力・心情・実践意欲の育成 ○いじめ防止と教育活動全体を通じた人権教育の推進	4	4	4	4	①自己有用感と主体性を育む学習集団の育成 ②規範意識や思いやりなどを育成する道徳教育の充実 ③共生社会の形成に向けた人権教育の推進
	基本方向5 健やかな体を育みます。	○家庭との連携による望ましいライフスタイルの構築（早寝・早起き・就寝1時間前ノーメディアキャンペーンの実施） ○食に関する指導の充実と家庭と連携した望ましい食習慣の形成 ○健康と体力の保持増進と運動に主体的に取り組む生徒の育成（新体力テストの実施と分析・保健体育科、委員会、部活動における体力向上の取組）	4	4	4	4	①規則正しい生活習慣の確立 ②食育の推進 ③体育授業及び運動部活動の充実と体力の向上
	基本方向6 子ども一人一人に応じた、きめ細かな教育を推進します。	○ユニバーサルデザインの視点による授業づくりと教育ニーズに応じた多様な学びの場の構築 ○小中連携による情報の共有の場の構築と個別支援の充実（学習支援、相談活動） ○不登校の未然防止・不登校への適切な対応（学習支援等）と教育相談の充実	4	4	4	4	①特別支援教育の充実 ②就学前相談の充実と小・中学校との円滑な接続 ③不登校児童生徒の居場所づくりと学校復帰に向けた支援の充実
学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の	基本方向7 子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場をつくりまします。	○校舎内外の安全確保と活動が見える潤いある学校環境整備 ○自分の命は自分で守ることができる生徒の育成と通学時の安全対策 ○教職員の危機管理能力の育成（学校の危機管理・教職員の不祥事防止）	4	4	4	4	①安全・安心・良質な学校環境づくりの推進 ②通学の安全対策 ③学校の危機管理対策
	基本方向8 教職員のモチベーションと資質の向上を図ります。	○計画的な校内研修の実施と諸調査の活用及び校外研修の奨励と研修内容の共有 ○キャリアに適した業績目標の設定とOJTによる人材育成 ○業務改善計画の作成と評価及びボトムアップによる業務改善と教職員の意識改革	4	4	4	4	①教職員研修の充実 ②人事評価制度とキャリアアップ研修の充実 ③教職員の働き方改革の推進
	基本方向9 地域とともに特色ある学校づくりの推進に努めます。	○コミュニティスクール機能の充実（学校経営グランドデザインの承認・学校評価等）と熟議による地域課題の共有 ○地域資源（史跡、企業、人材、施設）の積極的な活用と地域に開かれた学校づくり ○地域と連携した特色ある学校づくり・地域伝統芸能の継承に係る活動の奨励（十和田地域づくり協議会「十和田の日」制定に係る協力）	4	4	4	4	①学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進 ②地域学校協働推進事業による学校の活性化 ③学校の創意工夫による特色ある学校経営の推進

5	きわめて良好
4	良好
3	おおむね良好
2	やや不十分
1	努力を要する

5	実現状況は極めてよい	達成率90%以上
4	実現状況は良好である	達成率80~90%
3	実現状況はおおむね良好である	達成率60~79%
2	実現状況はやや不十分である	達成率50~59%
1	実現状況は不十分で努力を要する。	達成率49%以下

基本方向1 「自己実現のために必要な確かな学力の定着」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	授業規律が守られ、意欲的に取り組む生徒が多い。全体として、家庭学習の充実が課題である。	中間	3	中間	3	質問に対する回答結果が生徒と保護者で乖離しているので、「生徒が頑張っている」という情報を保護者に発信する必要がある。
年度末	授業規律が守られ、意欲的に取り組んでいる。1、2学年では学習状況調査において県平均を超えた教科が多かった。	年度末	4	年度末	4	学習意欲向上の取組がされていて評価できる。読書についてのアンケート回答が向上していて素晴らしい
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・探究型授業プロセス「かいたく」を推進すべく、分掌部会の際などに教員間の情報共有の時間「聞き合い」を設けた。学習課題の設定や振り返り、学び合いについて教職員の理解や力を更に高めたい。 ・学校評価アンケートにおいて、授業への取組に関する評価は生徒・教職員ともに高いが、保護者からの評価は低かった。家庭で意欲的に学ぶ姿が見られていないことが原因だと考えられるため、家庭学習の充実に向けた改善策を立て、実践する。 ・朝読書への取組は良好。読書に親しませ、朝に落ち着いた雰囲気の中で1日を始められるよう継続したい。 ・hyper-QUを5月末に実施。学期末に職員研修会を実施し、結果の分析と2学期からの学級経営・授業づくりにおける方策について話し合いを行った。					
	【年度末評価】 ・教員間の情報共有の時間「聞き合い」を設けたり、授業を見合う会を設定した。教職員同士でICTや生成AIの効果的な活用方法について自発的に話し合う場面も多数見られ、それぞれが授業改善に努めた。その結果が生徒たちにも還元されたと考える。 ・学校評価アンケートにおいて、授業への取組に関する評価は生徒・教職員ともに高く、保護者からの評価も改善した。研究授業の頑張りや、家庭学習の充実に向けた各学年の改善策が実を結んだと考えられる。 ・全校ビブリオバトルや十和田図書館との連携から、保護者の評価が格段に高まっている。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○探究型授業プロセス「かいたく」の推進と、授業におけるタイムマネジメント力の向上	・十和田中学校探究型授業プロセス「かいたく」の実践 ・必要性や必然性のある学習課題の設定 ・思考を広げ深める学び合いの工夫 ・タイムマネジメントを意識した授業展開 ・学びを価値づける振り返り
○生徒指導の機能を活かした望ましい学習集団づくり	・hyper-QUの実施（年2回）と分析・情報交換 ・hyper-QUの個票の活用
○読書活動の推進（朝読書の推進・生徒主体による読書活動の推進）と授業と連動した読解力の育成（ビブリオバトルの実践）	・朝の15分間読書の実施（家庭からの本の持ち込み） ・委員会活動の充実（図書コーナーの設置、本の紹介等） ・十和田図書館との連携（ブックトーク） ・全校ビブリオバトルの試み

<資料>

肯定的な回答の割合			平均値	生徒	保護者	教職員
質問①	授業・学習に意欲的である。	中間	80%	97%	50%	94%
		年度末	91%	99%	74%	100%
質問②	授業で自分の思いや考えを発表している。	中間	70%	70%	/	/
		年度末	76%	76%	/	/
質問③	読書活動に積極的である。	中間	62%	92%	30%	63%
		年度末	75%	85%	86%	55%

基本方向2「自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	地域や外部機関と連携しながら、ふるさとを愛する心をもった生徒に育てるように取り組んでいる。	中間	3	中間	4	多くの体験や見聞の機会を設けて、地域（歴史・文化・先人・産業など）を理解させ、「開拓精神」の要としてほしい。
年度末	TAP活動やキャリア教育講演会を通して、地域との関わりやふるさとで生きることについて考えを深めることができた。	年度末	3	年度末	4	子ども達の活動や地域貢献活動の動きが活発化している。地元企業と連携した体験的なキャリア教育の推進が伺える。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・1年生は、校外学習で大館少年自然の家に宿泊して、自然の中での体験活動に取り組むことができた。 ・2年生は、鹿角市教育センターと連携して、地元企業等で職場体験を行い、キャリア育成することができた。 ・3年生は、修学旅行で、東京都内を中心に活動し、都市部とふるさと鹿角を比較することで、ふるさとのよさを再発見することができた。 ・十和田魅力アッププロジェクトは、全校縦割りで計画的に進めることができています。					
	【年度末評価】 ・TAP活動を通して、地域の伝統文化の継承やPRにつなげることができた。 ・キャリア教育講演会を開催し、ふるさと鹿角で生活することについて考えを深めることができた。 ・TAP活動の劇では、新しい脚本による劇を発表したが、毎年活動内容については考えていく必要がある。 ・生徒が取り組んでいる活動について、保護者や地域の方々に周知していくことも必要だと考える。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○発達段階に応じたキャリア教育の推進(望ましい勤労観・職業観等の育成・進路指導の充実)	・校外学習での職業講話の実施（1年生） ・職場体験学習の実施（2年生） ・高校説明会等の実施（今年度は全校で実施）
○地域に学び貢献しようとする気概をもった生徒の育成（TAPの見直し・充実、地元企業との連携、ラフスタディの充実）	・十和田魅力アッププロジェクト（TAP）の見直し ・十和田劇場新作上演、大湯大太鼓保存会との連携再構築 ・地元企業と連携した「ライフ・スタディ(キャリア講話)」
○地域と連携した地域を元気にする取組の実践（地域主催行事やボランティア活動への参加奨励・生徒の学習成果の披露）	・わらしこめらしこ盆踊り披露への参加、ケマカツへの出店、夏至祭や縄文祭への参加、遺跡ガイド活動他 ・学校祭を通じた学習成果の発信 ・自主的地域貢献の啓発（地域イベント、祭り、ボランティア活動などへの年2回以上参加の促進）

<資料>

肯定的な回答の割合			平均値	生徒	保護者	教職員
質問④	進路や職業（職場）に関する学習で望ましい勤労観や職業観が育成されている。	中間	79%	91%	57%	88%
		年度末	79%	92%	64%	82%
教師⑤	TAP活動や地域住民・地元企業と連携した取組は、地域に学び、地域に貢献しようとする生徒の育成につながっている。	中間	84%	/	74%	94%
		年度末	95%	/	89%	100%

基本方向3「情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	各学年によって情報モラルの差があり、指導が必要な場面もある。TAPへの取組状況はよい。	中間	3	中間	3	時代を生き抜く力の原点となる内容であり、今後、益々重要になってくる。更に指導に力を入れてほしい。
年度末	授業の中でICT機器がより活用されるようになったが、情報リテラシーについて継続して指導していく必要がある。	年度末	4	年度末	4	教育ICTを活用し、情報発信するなど、グローバル化に対応した取組に更に期待したい。情報モラル教育の徹底が大切である。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・学校教育活動のあらゆる場面で、ICTが活用されている。 ・生徒のクロムブックの活用スキルが年々向上しているため、クロムブックでの作業が早くなっている。 ・情報モラルに欠ける使用方法が見られるなど、学校外でのメディア使用方法も含めて指導の必要がある。 ・ICTを活用した情報発信も考えながら、TAPでの活動に取り組んでいる。					
	【年度末評価】 ・授業の中でのICT機器の活用が増えてきたので、より効果的に活用する場面を考えていく。 ・情報リテラシーについて継続指導し、外部発信する際の活動に生かしていく。 ・学校教育を通して、地域や鹿角のよさを発信する方法・手段等について、生徒も教師も必要なスキルを習得していく。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○学びの質を高めるICTの活用と情報モラル教育の推進（ICTを活用した主体的な学習の構築・関係機関と連携した情報モラル教育の推進）	・各教科および特別活動等におけるICTの活用の推進 ・ICT委員会主催の著作権に関する研修会の実施 ・各教科におけるICTの活用と情報モラルの指導 ・情報モラル教室の開催（生徒指導部）
○コミュニケーション能力（TPOにあった話し方）の向上とグローバル化に対応した情報発信	・学級による話し合い活動や生徒会活動、集会活動の充実（TPOにあった話し方）
○鹿角のよさ、十和田のよさを知り情報発信できる生徒の育成（TAP活動内容の充実による情報発信）	・十和田魅力アッププロジェクト（TAP）の実施（マスコミやメディアでの宣伝・報告活動等）

<資料>

肯定的な回答の割合			平均値	生徒	保護者	教職員
質問⑥	タブレット端末など教育ICTの活用が図られている。	中間	92%	99%	77%	100%
		年度末	98%	100%	94%	100%
質問⑦	あいさつ・ルール・マナーが身に付いている。	中間	95%	97%	93%	
		年度末	96%	97%	95%	
質問⑧	学校行事や生徒会活動や学級の係活動等を通して、コミュニケーション能力を高めている。	中間	92%	90%		94%
		年度末	97%	93%		100%
質問⑨	TAP活動など地域に関する活動を通して、ふるさととよさを知っている。	中間	95%	95%		
		年度末	97%	97%		

基本方向4 「豊かな心の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	学校や学級に居心地の良さを感じている生徒が多く、全体として素直である。一方、幼さが残る部分もあり、コミュニケーションや傾聴の力を高めさせたい。	中間	4	中間	4	学校が居心地の良い場所だと思っ生徒が多いことは、学校や家庭にとって喜ばしいことである。
年度末	学校や学級に居心地の良さを感じている生徒の割合が増加しており、落ち着いて学校生活を送ることができている。	年度末	4	年度末	4	コミュニケーション能力が高まっていることから一人一人の居場所のある学級づくりを更に期待したい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・今年度から実施している「1分間トーク」は生徒の関係づくりや聴く力の醸成において、教職員の中で一定の手応えが感じられた。今後は、更にトークテーマやソーシャルスキルトレーニングを意識した活動も展開したい。 ・QU研修会においてhyper-QUの分析と情報交換を行い、学級経営の一助とすることができた。 ・道徳教育については、学校、学年目標を設定し、計画的な実践が推進されている。 ・生活アンケートを生かした教育相談を実施し、いじめや諸問題の早期発見・対応につなげることができた。					
	【年度末評価】 ・生徒同士の関係づくりを進める上で、今年度実施してきた「1分間トーク」が大きな役割を果たしていた。 ・道徳教育については、学校、学年目標に沿って計画的な実践が推進され、生徒の肯定的回答も良好化した。 ・QU研修会を実施することで、教師集団がより適切な対応・支援を行うことができた。 ・道徳教育については、計画的かつ柔軟な形で着実に実践が推進されている。 ・生活に関するアンケートについて、実施方法や問題行動への対応を見直し、より効果的な運用をしていきたい。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○学校教育目標の具現化を目指した発達支持的生徒指導の推進（自己有用感と主体性の醸成と自己開拓の推進）	・一人一人の居場所がある学級づくり ・hyper-QUの実施（年2回）と分析・情報交換 ・生徒指導共通実践マニュアルの徹底 （発達支持的生徒指導の推進・主体性と自己有用感の醸成）
○道徳教育の充実と「特別の教科 道徳」授業実践による道徳的判断力・心情・実践意欲の育成	・道徳ノート（ポートフォリオ形式）の活用 ・学校、学年重点目標の設定 ・特別活動、生徒指導、総合的な学習の時間における重点の設定
○いじめ防止と教育活動全体を通じた人権教育の推進	・生活に関するアンケート調査の実施による早期発見と早期対応 ・スクールカウンセラー等の活用による相談活動の充実

<資料>

		肯定的な回答の割合				
		平均値	生徒	保護者	教職員	
質問⑩	学級や学校は居心地のよい場所になっている。	中間	92%	93%	91%	
		年度末	93%	97%	89%	
質問⑪	道徳の授業や道徳教育で、道徳的判断力・心情・実践意欲の育成が図られている。	中間	98%	96%		100%
		年度末	100%	99%		100%
質問⑫	生活に関するアンケート調査・カウンセラーの活用は、いじめや問題行動の防止になっている。	中間	95%	95%		
		年度末	93%	93%		

基本方向5「健やかな体の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	昨年度の新体力テストや球技大会の様子から、現3年生の体力が思わしくない。	中間	4	中間	4	家庭との連携に向けて、保護者の理解や協力をより促す取組や取組の強化が必要だと思われる。
年度末	現3年生の体力の伸びは小さかったが、球技大会では、それぞれの学年らしいプレーで盛り上がった。	年度末	4	年度末	4	保護者が学校に求める連携の形や生活習慣を把握すると、更に良い方向に進むことが期待できる。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・夏休みを前に情報モラル教室を行い、望ましい生活習慣の確認とSNSなど情報端末を利用する際に気を付けるべき点を確認することができた。 ・体育祭において、体育委員を中心に、各学級で主体的な態度で種目練習に取り組む姿が見られ、当日も高い意欲を感じる体育祭だった。今年度も全校生徒が新体力テストを行い、結果を集計システム「ALPHA」に入力することで、自分自身で体力を確認しながら、目標をもって運動に取り組む姿勢につながった。 ・昼休みの体育館開放で、体育委員が運動の呼びかけを行っている。多くの生徒が、主にバスケットボールやバレーボールの球技に取り組んで楽しんでいる。用具の使い方や片付けも悪くはない。					
	【年度末評価】 ・給食委員会が「ペロリンウィーク」を実施し、残食を減らす取り組みを行った。自分が食べられる量を、好き嫌いなくしっかり食べるという望ましい食習慣の形成につなげることができた。 ・望ましい生活習慣の形成について、実施する活動やその結果の共有方法、家庭との連携方法を見直していきたい。 ・保健体育の授業や部活動、体育委員会の活動の成果が表れ、肯定的な回答の数値が高い。					
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容				
○家庭との連携による望ましいライフスタイルの構築（早寝・早起き・就寝1時間前ノーマディアキャンペーンの実施）		・HANキャンペーンの実施（早寝早起き・朝ご飯・就寝1時間前ノーマディア） ・三者面談を通じた保護者との生活習慣に係る課題の共有				
○食に関する指導の充実と家庭と連携した望ましい食習慣の形成		・委員会活動による望ましい食習慣の形成				
○健康と体力の保持増進と運動に主体的に取り組む生徒の育成（新体力テストの実施と分析・保健体育科、委員会、部活動における体力向上の取組）		・新体力テストの実施と分析 ・保健体育科の授業実践による体力の向上 ・部活動における体力向上の取組				
< 資料						
肯定的な回答の割合			平均値	生徒	保護者	教職員
質問⑬	HANキャンペーン、委員会活動、三者面談等による家庭との連携は望ましい生活習慣の形成につながっている。	中間	86%	93%	64%	100%
		年度末	82%	91%	63%	91%
質問⑭	給食だより、委員会活動等による食に関する指導と家庭との連携は、望ましい食習慣の形成につながっている。	中間	90%	86%	/	94%
		年度末	93%	86%	/	100%
質問⑮	保健体育や部活動等の取組により、体力の保持増進と運動に主体的に取り組んでいる。	中間	89%	92%	82%	94%
		年度末	94%	95%	88%	100%

基本方向6 「子ども一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	ペア学習やグループ学習など、ねらいに応じて学習形態が工夫されている。生徒一人一人に寄り添った対応のための情報共有ができています。	中間	4	中間	4	個人・集団・家庭との連携が確保できるようになったことが諸問題の早期発見につながっている。
年度末	聞き合う活動に取り組んだ成果が表れ、生徒が自分の考えを話すことができています。別室登校の生徒も前向きに学習に取り組んでいる。	年度末	4	年度末	4	不登校等の原因は様々であるが、限り無く0%に近づけるように、更に取組を強化してほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・学習環境は学習指導部主導で統一が図られ、ユニバーサルデザインを意識した学習環境を整備できた。 ・学区研修会で小中の学習や生徒指導についての情報共有を行い、その後の指導に生かすことができた。 ・不登校生徒への対応のため、学年部だけではなく全職員で情報共有して対応に当たることができた。 ・一部の生徒、一部の教科ではあるが、別室登校の生徒が授業に参加できるようリモート形式で対応することができた。 ・三者面談だけではなく生徒との二者面談を実施し、生徒の困り感が出する前に対応することができた。					
	【年度末評価】 ・学習環境は学習指導部主導で年間を通して統一が図られ、教育ICTも場面に応じて有効に活用された。 ・別室登校の生徒に、日々のスケジュール表を各自に考えるようにさせることで、1日の生活の流れに見通しをもたせ実行させることができた。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○ユニバーサルデザインの視点による授業づくりと教育ニーズに応じた多様な学びの場の構築	・教室前面掲示の簡素化 ・個、ペア、グループ等学習形態の工夫 ・教育ICTの有効活用
○小中連携による情報の共有の場の構築と個別支援の充実（学習支援、相談活動）	・学区研修会による情報共有 ・特別支援教育支援員の活用 ・教育相談の実施
○不登校の未然防止・不登校への適切な対応（学習支援等）と教育相談の充実	・諸調査による不登校傾向生徒の早期発見 ・ケース会議の実施と早期対応 ・不登校生徒への学習支援 ・不登校生徒およびその保護者との定期的な面談・相談活動

<資料>

			肯定的回答	そう思う	だいたい	あまり	思わない
教職員⑮	不登校の未然防止に向け生徒の様子を観察し、迅速・適切な対応を心がけている。	中間	100%	75%	25%	0%	0%
		年度末	100%	18%	82%	0%	0%
教職員⑯	不登校傾向・相談室利用生徒への指導及び保護者との連絡が、組織的かつ効果的に行われている。	中間	75%	25%	50%	25%	0%
		年度末	81%	27%	64%	9%	0%
教職員⑰	個に応じた支援の充実に向けて、学校全体できめ細かな教育が推進されている。	中間	100%	13%	87%	0%	0%
		年度末	91%	9%	82%	9%	0%

基本方向7「子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場づくり」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	学校安全日を設定し、毎月、全職員で安全点検を行っている。また、校舎内外の危険箇所や通学路の確認も行っている。	中間	4	中間	4	安全日を設定する他、各種訓練、安全点検を実施し、危機管理に配慮し、安全な学校生活を送ることができている。
年度末	学校安全日を設定し、毎月、全職員で安全点検を行っている。また、校舎内外の危険箇所や通学路の確認も行っている。	年度末	4	年度末	4	PTAや地域の連携で安全・安心、そして良質な学びができています。きめ細かい対応が取られ、肯定的な回答の割合も100%と評価できる。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・毎月、1日を学校安全日として設定し、全職員で管理箇所等の安全点検を行っている。修繕等が必要な場合には即座に対応し、生徒が安全に学校生活を送ることができるようにしている。 ・PTA厚生部主催のグラウンド及び校舎周辺整備作業に多くの保護者の参加があった。 ・交通安全教室(5月)や避難訓練(6月)を行い、自分や仲間の命を守り、安全に学校生活が送れるようにしている。					
	【年度末評価】 ・送迎の際の駐車場の使い方や登下校の際の安全対策について、お便りを発行して生徒、保護者に周知したことで事故なく安全に運用することができた。 ・避難訓練(10月)を実施し、生徒の危機管理意識を高めることができた。 ・学校危機管理・不祥事防止研修を学年部輪番制で行い、職員が自分事としてとらえ、危機管理意識を高めた。					

評価指標 (学校の実践課題)	具体的な取組内容
○校舎内外の安全確保と活動が見える潤いある学校環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全日の設定と安全点検の実施 ・PTA活動における除草作業の実施
○自分の命は自分で守ることができる生徒の育成と通学時の安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全点検の実施 ・スクールバス乗車、下車時の安全指導 ・交通安全集会の実施 ・避難訓練の実施
○教職員の危機管理能力の育成 (学校の危機管理・教職員の不祥事防止)	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部輪番制による学校危機管理・不祥事防止研修会の実施 ・管理職による不祥事防止研修資料の提供

< 資料 >

肯定的な回答の割合		平均値	生徒	保護者	教職員
質問⑱ 生徒は、命を守り安全に過ごす意識をもち、その方法を身に付けている。	中間	94%	100%	82%	100%
	年度末	95%	99%	85%	100%
質問⑲ 生徒たちは、安全で快適な環境の中で生活している。	中間	100%	/	/	100%
	年度末	100%	/	/	100%
質問⑳ 学校敷地内は安全で、メール等の連絡体制も整備されている。	中間	77%	/	77%	/
	年度末	95%	/	95%	/

基本方向8 「教職員のモチベーションと資質の向上」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	校内研究体制の充実や初任者研修メンターチームの活性化によって教職員の資質向上が図られている。	中間	4	中間	4	働き方改革を意識し、計画的に実践されていて改善されているようだ。職員間のコミュニケーションがよくとられていると感じた。
年度末	校内研究体制を工夫したことで、職員間の情報が共有しやすくなった。	年度末	4	年度末	4	学校内外研修等の充実で、自らはもとより、生徒のモチベーションを引き出す姿が伺える。ライフワークバランスの向上を来したい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・QU検査や授業アンケートの結果をもとに生徒の状況に応じた研究内容に取り組んでいる。 ・月に1度、「職員版聞き合い活動」を実施しており、普段の実践を共有したり、取組や悩みなどを相談したりしている。 ・業務改善のため、ICTを有効活用し時間短縮や作業効率の向上に努めている。					
	【年度末評価】 ・学習指導案の様式や分科会の持ち方を変更・工夫し、授業者の負担を軽減したり、参観者の意識を改善したりできた。月に1度の「職員版聞き合い活動」では、教科指導や学級経営、生徒指導、ICTなどについて多岐にわたる情報を幅広い年代間で共有できた。 ・ICT等による業務改善が進められ、仕事のやりがいとライフワークバランスの向上が図られた。 ・若手教員のリーダーシップが学校活性化の原動力となり、明るく活気のある学校・職場となっている。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○計画的な校内研修の実施と諸調査の活用及び校外研修の奨励と研修内容の共有	・校内研究、研修計画の立案 ・全国学テ、県学状、QU検査等の活用 ・教育ICT活用推進に係る研修の充実 ・初任研メンターチームによる研修の充実
○キャリアに適した業績目標の設定とOJTによる人材育成	・評価面談の実施による業績目標の設定 ・分掌チームによる若手教員の育成
○業務改善計画の作成と評価及びボトムアップによる業務改善と教職員の意識改革	・業務改善計画の周知 ・最終退校時間の設定とその厳守 ・学校行事の見直し ・職務分担制の推進（給食指導、ノートチェックなど）

<資料>

			肯定的回答	そう思う	だいたい	あまり	思わない
教職員⑳	研究主題の実現や授業改善に向けて、校内授業研究会が効果的に行われている。	中間	100%	38%	62%	0%	0%
		年度末	100%	64%	36%	0%	0%
教職員㉑	指導案検討や全体研究会・聞き合う会に積極的に参加し、授業改善に取り組んでいる。	中間	100%	50%	50%	0%	0%
		年度末	100%	73%	27%	0%	0%
教職員㉒	仕事のやりがいと達成感を大事にしながら、ライフワークバランスの向上を心がけている。	中間	94%	13%	81%	6%	0%
		年度末	100%	27%	73%	0%	0%
教職員㉓	校内業務のデジタル化をはじめとする業務改善が進んでいる。	中間	75%	25%	50%	25%	0%
		年度末	91%	36%	55%	9%	0%

基本方向9 「地域とともに特色ある学校づくりの推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	全校縦割りでの十和田魅力アッププロジェクトや生徒等を交えた熟議（学校運営協議会）に通じ組んでいる。	中間	4	中間	4	熟議を開催することで、学校や学校運営協議会、そして地域と連携した共通認識を意識した取組は評価できる。
年度末	学校祭で十和田魅力アッププロジェクトの成果を披露し、「十和田の日」を盛り上げる一翼となった。	年度末	4	年度末	4	地域と連携した活動、特に「十和田の日」での十和田魅力アッププロジェクトの活躍が素晴らしかった。特色ある学校作りが進んでいる。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・4月に、第1回学校運営協議会を実施し、今年度の学校経営の方向性等について承認を得た。夏休みに行われる第2回学校運営協議会では、委員と全教員に加え、生徒代表等による熟議を行う予定である。 ・毛馬内盆踊り講習会（1年）、ストーンサークル夏至祭（22名参加）等を実施した。また、十和田魅力アッププロジェクトにおいて、毛馬内盆踊り保存会員、大湯環状列石ガイド、劇指導員（尾樽部和大人さん）等の地域の方々と連携し、計画的に取組を進めることができています。劇では新作を発表する予定である。					
	【年度末評価】 ・学校祭で、十和田魅力アッププロジェクトの劇「錦木物語」を初演し、好評だった。また、毛馬内こもせ通りに出店し、「十和田の日」のイベントの1つとして協力できた。 ・地域学校協働活動では、今年度も地域の方々の協力を得て、本校の教育活動に対し効果的だった。 ・大湯大太鼓保存会の方々のご指導で、今まで置いてたたいていた太鼓を持ってたたくようにしたり、発表の質を向上させていただいたりし、学校祭では迫力のある演奏をすることができた。					
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容				
○コミュニティスクール機能の充実（学校経営ランドデザインの承認・学校評価等）と熟議による地域課題の共有		・学校経営ランドデザインの承認・学校評価等 ・熟議による地域課題の共有				
○地域資源（史跡、企業、人材、施設）の積極的な活用と地域に開かれた学校づくり		・学校と地域との双方向による地域資源の活用 ・学校地域協働実施本部事業の活用				
○地域と連携した特色ある学校づくり・地域伝統芸能の継承に係る活動の奨励（十和田地域づくり協議会「十和田の日」制定に係る協力）		・毛馬内盆踊り等地域伝統芸能に係る講習会の実施 ・地域伝統芸能事業への参加奨励 ・「十和田の日」の会場の一つとしての十中、「十和田の日」のイベントの一つとしての十中祭というコンセプトで実施				
<資料>						
肯定的な回答の割合						
			平均値	生徒	保護者	教職員
保護者 ^⑰	保護者・地域の方に学校（生徒）の様子を分かりやすく伝えている。	中間	97%	/	93%	100%
		年度末	98%	/	95%	100%
教職員 ^⑳	子どもたちは、自主的に地域イベントや祭典・伝統芸能に参加している。	中間	56%	65%	47%	56%
		年度末	76%	82%	64%	82%
教職員 ^㉑	学校運営協議会や地域学校協働本部事業と連携し、地域の教育力を活用している。	中間	75%	/	/	75%
		年度末	82%	/	/	82%